

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-181	16-137	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Beverage Intake and Metabolic Syndrome Risk Over 14 Years: The Study of Women's Health Across the Nation. 14年追跡による飲料摂取量とメタボリックシンドロームのリスクについて		
執筆者		
Appelhans BM, Baylin A, Huang MH, Li H, Janssen I, Kazlauskaitė R, Avery EF, Kravitz HM.		
掲載誌		
J Acad Nutr Diet. 2017 Apr;117(4):554-562. doi: 10.1016/j.jand.2016.10.011. Epub 2016 Dec 6.		
キーワード		PMID
飲料、高カロリー、メタボリックシンドローム、中年女性		27938940
要旨		
目的： 飲酒と高カロリー飲料は、心血管代謝性疾患と関連があるとされるが、結果が一致していない。本研究では、飲酒量、高カロリー飲料および低カロリー飲料と心血管代謝疾患の発症リスクの関連を中年女性において検討した。		
方法： The Study of Women's Health Across the Nation は 1996 年から 2011 年の多施設共同研究で、14 年追跡の前向きコホートである。飲料量と追跡期間中のメタボリックシンドローム（高血圧、腹部肥満、空腹時血糖値異常、低 HDL コレステロール、高中性脂肪）を定義する心血管代謝性危険因子の発症を評価した。アメリカ 6 都市のアフリカ系、中国系、日系人、非ヒスパニック白人の中年女性 1,448 名を分析対象とした。プライマリアウトカムはメタボリックシンドロームとメタボリックシンドロームを定義する個々の心血管代謝性危険因子の発症とした。一般線形混合モデルを用いて、各飲料について摂取量とアウトカムに対するオッズ比(OR)、95%信頼区間(CI)を算出した。		
結果： 高カロリー飲料の摂取量はアフリカ系アメリカ人が最も多く、高学歴者が最も少なかった。非ヒスパニック白人は飲酒量が最も多かった。エネルギー摂取量や他の交絡因子を調整した、高カロリー飲料 1 日 355ml 当たりのメタボリックシンドロームの発症 OR は 1.05 (95%CI 1.02-1.08) であった。高カロリー飲料は、高血圧(OR 1.06, 95%CI 1.02-1.11)と腹部肥満(OR 1.10, 95%CI 1.03-1.16)の発症リスク上昇との関連を認めたが、その他の危険因子発症との関連は認めなかった。アルコール飲料、低カロリーコーヒー、茶、ダイエットコーラはメタボリックシンドロームの発症との関連を認めなかった。		
結論： 14 年の追跡で、高カロリーの非アルコール飲料摂取は、中年女性のメタボリックシンドロームの発症と関連する。民族や学歴による各飲料の消費量の差が糖尿病や心血管疾患の危険因子の相違に寄与している可能性がある。		